

2008/9/12(金) 午後 5:14

無題

練習用



0



写真:プラハ城入口、聖ヴィート大聖堂にあるムーシャ作のステンドグラス。

今日は、オーストリアから、テレージェンシュタット強制収容所のあったチェコへと移動します。フランクが、『死と愛』の草稿を持って、家族とともに最初に入った強制収容所です。フランクはこの時、この理論を自ら実証して行くことになるだろうという予感がすでにあっただけでしょうか。

Fさん、Nさん、Y.N.さん、T.K.さんの4人は、フランクがテレージェンシュタット強制収容所へ鉄道で送られていくその時の状況を体験してみたいということで、陸路プラハへ移動することにしました。他の参加者は、飛行機で移動しました。前便の到着が遅れた為予定より15分遅れで出発しました。

飛行機の窓から見える風景は、延々と続く畑と、教会を中心とした箱庭のような集落の連続です。ウィーン郊外からプラハに近づくにつれて、畑の形状が変化しました。始めは、長方形にきちんと区画整理されていたのが、プラハに近づくにつれて土地の形状をそのまま利用したひし形や台形、つりがね型など独創的なパッチワーク模様になっていきました。

飛行機の中で、こころの中に流れていた音楽を『♪美しき青きドナウ』から、『♪モルダウ』へと変えたいと思いましたが、肝心の『♪モルダウ』の旋律が浮かびません。何度かどんな曲でしたっけ？と聞いてやっと思い出しました。1時間弱の飛行時間でしたので、そんな会話をしたり、機内食の小さなピロシキのようなパンを食べたりしている間にあっという間に到着しました。

チェコ共和国はEU加盟国なので入国審査なしですが、通貨はチェココルナです。だいたい1コルナ＝7円ぐらいです。この通貨名は、チョコ好きには、チョココロネに聞こえて仕方ないのです。ちなみに、チェコ語でイエスは「アノ」、ノーは「ネ」なので、会話は「あの一、あの一、あの一ね。」と聞こえます。

プラハ空港からは、チャーターバスにて30分ほどでホテルへ。ガイドさんから、「国境がなくなって人の出入りが激しくなり、場所によっては治安もあまり良くない。旧市街庁舎の時計台の前でからくりに取り囲われていると鞆からお財布をすられたりするので注意してください。」などのアドバイスを受けました。

チェックインタイムよりも早く着いたため、部屋にはまだ入れませんでしたが、ホテルに荷物を預けてそれぞれ市内観光へ。

ウィーンで外歩きに慣れたこともあって、あっという間にみんな目的の所へと移動してホテルからは誰もいなくなりました。

Y・I・Aトリオは、時間の制約の中トラムに乗って、プラハ城に向かいました。降りる場所を確認していなかったの
で、人がたくさん歩いているのが見えた所でなんとなく下車してしまいました。でも、本当はもう少し乗っていれ
ば、城の入口まで徒歩2分のところまで行けたらしいのです。

城は見えども結構な上り坂で登っても登ってもなかなか着きません。ここで、Aさんは「カフカ(プラハ出
身)の『城』という小説に『行けども行けどもなかなか城にたどりつかない』とあるのは、これだったか。手前でトラ
ムを降りたのは、私にとってはとても意味があったと思う」とおっしゃいます。なるほど、さすがロゴセラピスト。すぐ
に体験価値に気付いて知らせてくれます。実は半分バテバテだったYは、一気に元気を取り戻し「日本に帰った
ら、それを読みます」と宣言しました。

プラハ城内(14C.)には聖ヴィート大聖堂(入って左側三番目のステンドグラスは、アルフォンス・ミュシャ(チェコ
語ではムハ)の作で、女性の横顔が彼らしいタッチですぐにわかります。)、聖イジー教会、旧王宮、お抱え錬金術
師たちの住まいだったという伝説のある黄金の小路などがあります。見学のためのチケットには、ショートとロン
グがあり、ショートは二日間有効、ロングは三日間有効とのこと。つまり、それだけ見るべきところがあるといこ
とです。

お城の見学を終えて、先ほど苦労して登って来た坂道をあつという間に下り、カレル橋へ出ます。触れると幸せ
になれるという聖ヤン・ネポムツキー像は、ちょうどその前の石畳を改修中で出会えませんでした。ここで次々
と(聖人に近い順?)旅の同行者達と出会いました。

この橋を渡ってそのまますぐ人の波に押されて歩いていくと旧市街広場へ出ます。プラハは建築物の博物館
と言われ、旧市庁舎は数世紀かけて増築を重ねられただけあって、異なる建築様式が連なる複合建造物で
す。その南側の壁にある天文時計は15世紀につくられたとか。かつてヨーロッパの中心地であった当時を偲ばせ
てくれます。まるで中世にタイムスリップしたかのような錯覚にさえなります。からくりは、毎時作動します。天文時
計の上にある2つの窓が開き、キリストの12使徒が順に登場するのです。どこの一角をとっても絵になるよう
な、世界遺産の町並みです。

O.K.先生は、「ここで時計を見ていない人は怪しいというので、そういう人が出没していないか観察に行った」そう
です。さすが、認知心理学の研究者。でも、そういうO.K.先生は、時計を見ていない怪しい人だと思ふので
す。

夜は、グループによっては、チェコの伝統芸能、マリオンネットを見に行ったようです。言葉がわからなくても「掛け
値なしにすごく楽しかった」そうです。

夕食もグループごとにとりました。あるグループは長さ30センチのサンドイッチを一人一本食べたそうですが、私
たちは、通りに面したチェコ料理屋で鱈の塩焼きとチーズ揚げなどを注文しました。飲み物も頂きましたが、な
んと一人あたり400コルネ(2,800円)近く払いました。日本並みかそれ以上の物価です。観光地価格だったせいも
あるようですが、全般に物価は日本と変わらないものが多かったように思います。食料品店に行けば、プリンミッ
クス(日本で言うババロア)一袋5コルネ(35円)なんていうお手頃価格のものもあるのですが…。

プラハで気がついたのは石畳の石の大きさです。一般的なヨーロッパの道の4個分が1つの石の大きさでし
た。ところがあまり整備や補修はされず、欠けたり、轍でへこんだままでの放置状態が多くみられました。かつて
多くのユダヤ人がナチスに連行されていった同じ道を歩きながら、明日訪れる強制収容所をイメージし、一般観
光ではない、学びを予習することになりました。

ホテルの窓からは、プラハ城のライトアップが見えます。2泊しからないのはちょっともったいないくら
いでした。明日は、この旅の三大イベントのフィナーレ、テレージェンシュタット(チェコ語ではテレジン)行きで
す。このイベントに備えて早めに就寝します。(C.I. & K.Y記)